

鳥尾小彌太 とりのち 軍人。弘化四年十二月五日長門國秋生乳、明治二十八年四月十四日歿（一八七〇—一九〇五）。舊姓中村、謹敬高、通稱一之助、中村白太郎、熙光、鳳輔。號不識道人、得庵、得庵居士、得庵思益居士、御垣。安政五年江戸で江川坦庵門に入る。文久三年奇兵隊に入る、隊長に進む。戊辰戦では鳥尾隊を編成して功を挙げた。明治二年共都省出任、陸軍大輔に累進して参謀局長に轉じ、十二年近衛都督。翌年病を獲て職を辭し、参禪生活に入る。十五年統計院初代院長就任。十八年歐洲行。歸朝後、反歐化主義の立場から、谷千城等と保守中止派を組織して機關誌『保守新論』を創刊。また川合清丸、山岡鐵舟等と日本國教大道社を結成した。のち樞密顧問官、貴族院議員を歴任。晚年統一學會を設けて子弟の教育に當つた。

著書に、『點註土法論』（明治十五年三月市川榮山點註刊、四海堂）、訓點『心地觀經報恩品』（明治十七年二月明道協會藏版、北畠戎兵衛發賣）、『佛道本論——名法供養』（明治十八年一月三輪清吉刊、北畠戎兵衛・森江佐七發兌）、『正法眼藏』（明治二十五年二月十八日日本國教大道社）、『人道要論』（明治二十二年二月七日金港堂書籍株式會社）、『玉椿』（明治二十七年十二月二十日釣月庵藏版、川合清丸刊）等。

